

日中未来創発ワークショップ

in 沼津

実施報告書





要約

コロナウイルス禍の影響を受けて日中両国間の人的往来が著しく減少している。その結果、日中両国間のさまざまな分野において両国民による直接交流する機会が損なわれており、加えて日中両国を取り巻く国際情勢の変化も相重なり日本と中国のお互いに対する国民感情も悪化傾向が続いている。

このような現状を背景に、(公財) 笹川平和財団・笹川日中友好基金は、両国民の対話による相互理解を深める場を創出すると共に、広く人々に交流の大切さを伝えるため、(公財) 日本科学協会、学生団体「京論壇」、学生団体「茶話日和」の協力を得て 2023 年 5 月 21 日、6 月 17 日の 2 回、静岡県沼津市において「日中未来創発ワークショップ」を開催した。

本プログラムは、2022 年度に日中国交正常化 50 周年を記念して開催した同タイトルの「日中未来創発ワークショップ」を継承するものであり、本年度は日中両国の次世代を担う学生たちが、昨年同様 10 年後の未来に視点をおきつつ、「海のプラスチック問題」に焦点をしぼり、問題解決に向けたさまざまな可能性について、自由な発想で話し合いを行い、そのアイデアを発表した。日中の若者たちが同じテーマを題材に、対話を通じて考えを拡げる過程において、お互いの背景に理解を深め、新たな気づきや価値観が生まれることを目的とした。

今年度は、東京以外の交流ワークショップ開催の可能性を模索すべく、初めての試みとして静岡県沼津市で開催する運びとなった。5 月 21 日、第 1 回目のプレ開催では、本企画のコアメンバーとなった学生が所属する学生団体に協力を依頼し、都内の大学、地元静岡の大学、関西方面の大学からなど 16 名（日本人大学生 8 名、中国人留学生 8 名）の参加を得た。6 月 17 日、第 2 回目の公募型開催では、規模を拡大し参加者を公募したが、募集人数を上回る応募があったため抽選の結果、最終的に 33 名（日本人大学生 17 名、中国人留学生 16 名）が参加した。第 2 回目では、第 1 回に参加したコアメンバーたち数名が各チームで積極的にファシリテーター役を務めていた。2 回とも基本的には「海岸清掃体験」「カードゲーム」「専門家レクチャー」「グループワーク」という構成であったが、1 回目はグループワークのテーマを「海の未来を守る」、2 回目は「海の未来を創る」に設定し、日中の学生が混合でグループ対話を行い、理想とする未来とそれを実現するために克服すべき課題について、独創的かつユニークな発表が行われた。

本報告書は同ワークショップの実施概要をとりまとめたものである。



目次

1. ワークショップの開催概要

- (1) 実施目的
- (2) 開催日時
- (3) 会場
- (4) 主催団体／協力団体
- (5) 参加者募集方法
- (6) 参加者
- (7) 参加者の所属校

2. ワークショップの実施成果

2-1. 5月21日 プレ開催

- (1) 5月21日スケジュール
- (2) 専門家講師レクチャー概要
- (3) グループワーク
- (4) 講評コメント
- (5) 各チームの発表内容

2-2. 6月17日 公募開催

- (1) 6月17日スケジュール
- (2) ワークショップの開催告知
- (3) 専門家講師レクチャー概要
- (4) グループワーク
- (5) 講評コメント
- (6) 各チームの発表内容

2-3. その他

- (1) 海岸清掃体験について
- (2) 「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲームについて
- (3) ワークショップ会場 沼津御用邸公園について

3. 取材実績

4. 情報発信 (ウェブサイト、ブログ、SNS など)

5. 参加者アンケート

6. 主催団体・協力団体

7. 実施評価



1 ワークショップの開催概要

(1) 実施目的

日本人大学生・大学院生と中国人留学生等が、本プログラムの海岸清掃体験、海ごみ問題カードゲーム、専門家レクチャーを通じ、現実に海が直面している環境問題を実感し、海の環境問題を自分ごととしてとらえた上で、日本と中国がどのような協力により海の10年後の未来をよりよいものにできるかについて話し合い、その課題や解決策を発表する。コロナ禍の影響により、日中の学生たちが直接話し合い、お互いの背景や考え方に理解を深める交流の機会が稀少であったことを考慮し、ワークショップの発表内容よりも日中学生間の「傾聴と対話」をより重視し、お互いの意見を聞くことに重きを置いた。

(2) 開催日時

2023年5月21日(日) 9:00～17:00 (プレ開催)

2023年6月17日(土) 9:00～17:00 (公募開催)

(3) 会場

沼津牛臥海岸、沼津御用邸記念公園東附属邸学問所 (5月21日 プレ開催)

沼津牛臥海岸、沼津御用邸記念公園新主馬・東附属邸学問所 (6月17日 公募開催)

(4) 主催団体/協力団体

主催団体	公益財団法人笹川平和財団・笹川日中友好基金
協力団体	公益財団法人日本科学協会 学生団体「京論壇」 学生団体「茶話日和」
企画・運営協力	高橋恵子氏 (フリーアナウンサー) 山田典史氏 (BC 学院) 地元海岸清掃ボランティア団体「地球をきれいにする会」

(5) 参加者募集方法

5月21日 協力団体を通しての告知、募集

6月17日 告知ポスターおよびウェブサイトページによる公募

(6) 参加者

5月21日 プレ開催	日本人学生	8名
	中国人留学生	8名
6月17日 公募開催	日本人学生	17名
	中国人留学生	16名

(7) 参加者の所属校

東京大学、早稲田大学、学習院大学、日本大学、立命館大学、京都大学、明治学院大学、関西学院大学、東京学芸大学、University of Glasgow、東海大学、上智大学、国際基督教大学

2 ワークショップの実施成果

2-1. 5月21日 プレ開催

(1) 5月21日 スケジュール

8時30分 東京駅集合	新幹線で三島駅へ移動 三島駅から沼津市牛臥海岸へ移動
海岸清掃体験	協力：地元海岸清掃ボランティア団体「地球をきれいにする会」
開催挨拶	笹川平和財団 笹川日中友好基金 尾形 慶祐
昼食休憩	
ワークショップ	総合司会 高橋 恵子氏
「CHANGE FOR THE BLUE」 カードゲーム	ファシリテーター 石川 千里氏
専門家レクチャー	「海洋プラスチックと海洋政策」 笹川平和財団 海洋政策研究所 田中 広太郎研究員
グループワーク	ファシリテーター 山田 典史氏 1 海岸清掃・「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲーム 気づきの共有 2 「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲームで自分が担当した役割（職業）特有の気づきの共有 3 グループごとに「役割」（職業）を決定 自分たちが「〇〇」だとしたら、どう海洋環境問題に取り組むか、その職業をグループ内で決定 4 「役割」（職業）ごとの問題点を考える 5 問題点解決のカギとなるゲームチェンジャーと解決策を考える 6 中間発表 グループ対話の途中経過を全体共有し、他グループから質問や意見を仰ぎ最終発表に備える 7 最終発表
講評	石川 千里氏 田中 広太郎氏

(2) 専門家レクチャー概要

「海洋プラスチックと海洋政策」と題した笹川平和財団 海洋政策研究所 田中広太郎研究員の講演。

法律・人材・予算という海洋政策の三つの柱。「世界は海で繋がっている」ため国際連携が必要不可欠であること。日中両国の国、地域ごとの現状と取り組み。世界各国の海洋ゴミの回収技術や対応策。個人のモラルの問題だけではなく、社会全体の構造や意識改革が必要なこと。国際的に広がっている専門家連携の動きから、国内の「草の根」活動のネットワーク拡大に至るまで幅広くお話いただき、知見を広めた。



(3) グループワーク

6人ずつ3グループに分かれ対話を行う

最終アウトプットは自分ごととしてどうやって「10年後の海の未来を守るか」

- 1 海岸清掃・「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲーム 気づきの共有
- 2 「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲームで自分が担当した役割（職業）特有の気づきの共有
- 3 グループごとに「役割」（職業）を決定
自分たちが「〇〇」だとしたら、どう海洋環境問題に取り組むか、その職業をグループ内で決定
- 4 「役割」（職業）ごとの問題点を考える
- 5 問題点解決のカギとなるゲームチェンジャーと解決策を考える
- 6 中間発表
グループ対話の途中経過を全体共有し、他グループから質問や意見を仰ぎ最終発表に備える
- 7 最終発表

第1グループ 【農家】

選択した職業ごとに考えた問題点

- 農家も海を汚す側であることの認識の低さ
- 農業の河川、海への流出問題
- マルチシート、支柱資材などの廃棄問題

問題解決のためのカギ

- 農業、資材などの技術革新
- 教育による農家の意識向上
- 環境に配慮した場合の政府から与えられるインセンティブ



最終発表 職業ごとの海洋環境問題に対する解決策

- 技術面から環境に優しい資材の普及を図る
- 農家への海洋環境に対する教育を行う
- 環境に配慮した農業はコスト負担増が避けられないため、農家だけに負担させない社会の仕組みを作る

他グループからの
評価、意見

- 多角的な視点で素晴らしい
- 意識改革とルール整備をセットにすることによって実行性が高いと感じた
- 農家の意識を高めるという大前提に力を入れた点が素晴らしい

第2グループ 【自動車工場】

選択した職業ごとに考えた問題点

- 金属加工の過程で出る削りカス
- 工場排水の河川、海への流出問題
- エコカー生産のコスト負担

問題解決のためのカギ

- リサイクルできるモジュール構造開発の必要性
- 火星建設にリサイクル製品を活用する
- リサイクル、エコに貢献した人や企業にポイント(現金)などを付与する



最終発表 職業ごとの海洋環境問題に対する解決策

- AIを使って最も効率的な仕入れ、加工の製造を行う
- リサイクルしやすい素材を使用するなど、廃棄車の再利用を前提とした生産を行う
- エコポイントを世界通貨に

他グループからの
評価、意見

- 世界共通のエコポイントの発想が素晴らしい
- 今後 AI の発達で自動車業界における人的資源の最適化の可能性もあるのではないか
- 人や企業のエコポイント公開も考えられる

第3グループ 【メディア】

選択した職業ごとに考えた問題点

- 海洋汚染問題の発信力の弱さ
- 広告料でなりたっているメディアが中立性を保持することの難しさ
- 環境問題コンテンツの少なさ

問題解決のためのカギ

- 自然環境番組やコンテンツの充実
- 専門家による発信
- 環境に優しい企業賞、化石企業賞などをノミネート
- 海外メディア、地方メディア、企業メディアなどとの協力



最終発表 職業ごとの海洋環境問題に対する解決策

- 環境番組やコンテンツを積極的に発信する
- 環境に配慮している企業や化石企業賞などをノミネートする
- メディアは「人々の行動・意識変革に対する責任」と企業からの「広告収入」との兼ね合いの中で環境問題を発信しながら中立性、公平性を維持しつつ、企業の CSR 活動などを促す

他グループからの
評価、意見

- メディアの役割は大きい。正しいことを伝えることは大切
- 企業とメディアの関係、そして環境問題のバランスを考えているのが素晴らしい
- メディアの力は限られているが、世界を変えられるのはメディアの使命であり特性

(4) 講評コメント

「短時間で海洋環境問題の解決策とその課題にまで言及できてどのグループも素晴らしかった」

▶ 「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲーム ファシリテーター 石川 千里氏

「期せずして三つのグループがそれぞれ第一次産業、第二次産業、第三次産業を選んだが、いずれのグループも社会実装にまで言及した想像以上に踏み込んだ内容だった」

▶ 笹川平和財団 海洋政策研究所 田中 広太郎研究員

(5) 各チームの発表内容

海岸清掃体験・カードゲーム （「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲーム）からの気づき	海ごみ問題への対応として自分個人として どんな行動が考えられるか
海ごみ問題への対応として <ul style="list-style-type: none"> ■ 職業間、社会全体の連携が必要 ■ 市民意識の向上が不可欠 ■ 一見して良さそうな行動が必ずしも環境によいとは限らない ■ 海ごみ問題の多面性、多角的に問題をとらえる必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 3Rの徹底 ■ 環境に配慮したものを購入するようにする ■ ごみ拾いなどの活動に参加する ■ 知人に海ごみ問題の深刻さを周知する ■ 知人の海ごみを増やす行為を注意する

「中間発表」職業ごとに考えた問題点

第1グループ【農家】	第2グループ【自動車工場】	第3グループ【メディア】
<ul style="list-style-type: none"> ■ 農家も海を汚す側であることの認識の低さ ■ 農業の河川、海への流出問題 ■ マルチシート、支柱資材などの廃棄問題 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 金属加工の過程で出る削りカス ■ 工場排水の河川、海への流出問題 ■ エコカー生産のコスト負担 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海洋汚染問題の発信力の弱さ ■ 広告料でなりたっているメディアが中立性を保持することの難しさ ■ 環境問題コンテンツの少なさ



「最終発表」職業ごとに考えた海洋環境問題に対する解決策

第1グループ【農家】	第2グループ【自動車工場】	第3グループ【メディア】
<ul style="list-style-type: none"> ■ 技術面から環境に優しい資材の普及を図る ■ 農家への海洋環境に対する教育を行う ■ 環境に配慮した農業はコスト負担増が避けられないため、農家だけに負担させない社会の仕組みを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ■ AIを使って最も効率的な仕入れ、加工の製造を行う ■ リサイクルしやすい素材を使用するなど、廃棄車の再利用を前提とした生産を行う ■ エコポイントを世界通貨に 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境番組やコンテンツを積極的に発信する ■ 環境に配慮している企業や化石企業賞などをノミネートする ■ メディアは「人々の行動・意識変革に対する責任」と企業からの「広告収入」との兼ね合いの中で環境問題を発信しながら中立性、公平性を維持しつつ、企業のCSR活動などを促す

2-2. 6月17日 公募開催

(1) 6月17日 スケジュール

8時30分 東京駅集合	新幹線で三島駅へ移動 三島駅から沼津市牛臥海岸へ移動
海岸清掃体験	協力：地元海岸清掃ボランティア団体「地球をきれいにする会」
ワークショップ	総合司会 高橋 恵子氏
「CHANGE FOR THE BLUE」 カードゲーム	ファシリテーター 石川 千里氏
昼食休憩	
専門家レクチャー	<p>「日中民間の協力 海ごみアクション」 日本財団 海洋事業部 シニア・オフィサー / 笹川平和財団 海洋政策研究所 塩入 同主任研究員</p>
グループワーク	<p>ファシリテーター 山田 典史氏</p> <p>1 目的とゴール(最終発表)の説明</p> <p>2 プレインストーミング 「今後10年の日中民間の協力で海ごみを減らすアクション」 最初5分間会場(室内)で思いつくままに各自のアイディアを書き出す 御用邸園内を自由に移動しながら、アイディアを出し合う 最後の5分間会場(室内)に戻り各グループのアイディアをまとめる</p> <p>3 他チームとの意見交換 自分のグループでの対話内容を他グループと共有</p> <p>4 最終発表に向け、アクション案をまとめる 同時に実現のために克服すべき課題を考える</p> <p>5 最終発表 日本人と留学生が最低1人ずつ入り、アクション案を全体に向け発表</p> <p>6 相互評価 発表を聞きながら、全員がそれぞれのグループに一言コメントを書き出す</p>
講評	石川 千里氏、田中 広太郎氏、塩入 同氏

(2) ワークショップの開催告知

開催告知用ポスター

海でつながる日本と中国、そして未来。

日中未来創発ワークショップ in 沼津

海の未来を考える

日中両国の学生が日本と中国の未来に視点を置き、さまざまな協力の可能性について考える交流型のワークショッププログラムです。専門家の講義、実地体験、対話などの各プログラムを通して、お互いの考え方や立場に目を向け理解を深めることを目指します。今回のテーマは「海のプラスチックごみ問題」です。一緒に海の未来を考えてみませんか？

開催場所	沼津御用邸記念公園 東陽東陽学問所 〒410-0822 静岡県沼津市下青貫島2802-1 ※東京駅 (or新橋浜駅) →三島駅 交通費支給
日程	2023年 6月17日 (土)
募集人数	日本人学生・中国人留学生 計30名程度 ※応募者多数の場合は抽選となります。
申込締切	2023年 6月5日 (月) 正午
主催	公益財団法人徳川平和財団 徳川日中友好基金
協力	茶話日和、京論壇、日本科学協会 日中未来創発ワークショップ事務局
お問い合わせ先	Email: nicchu5157@apl.or.jp

※写真はイメージです

お申し込みはこちらから

タイムスケジュール
8:30 東京駅集合
9:40 三島駅集合 (現地集合の場合)
第1部 海洋清掃活動体験
10:30 午引海岸
第2部 ワークショップ
11:10 沼津御用邸記念公園 CHANGE FOR THE BLUE カードゲーム
12:30 ランチ
13:30 講義「海のゴミ問題」(講師: 堀入 剛)
グループ対話と発表
17:00 終了
17:30 三島駅へ移動・解散

公益財団法人 徳川平和財団
SAKAWA PEACE FOUNDATION

日中未来創発ワークショップ

日中で海の未来を考える

講師

堀入 剛 (いしむら つとむ)

水産庁水産大学校、特別員職員として参画、沼津港管理を担当。日本大学大学院工学研究科博士後期課程修了(博士(工学))。徳川平和財団海洋政策研究所にて海洋ごみ研究を行う。G7ハリファックス宣言、海洋大臣会合の政府代表専門家。現在、日本財団海洋事業部シニア・オフィサーとして、包括的海洋ごみ対策「日本財団・海洋汚染・プラスチックごみ削減と研究を推進」業務に、海洋白書2019 巻頭特集「なぜプラスチックが海の課題なの?」等。

ファシリテーター

石川 千里 (いしかわ ちさと)

北越系企業に勤務する傍ら、「社会問題」に取り組み体験型ビジネスカードゲームのファシリテーターをライフワークとする。環境問題への取り組みとして海洋清掃を主に行っているが、環境問題に取り組むことが経済発展につながる仕組み作りを模索中。海ごみ問題を考えるヒップネスカードゲーム「CHANGE FOR THE BLUE」をお楽しみください。

ファシリテーター

山田 典史 (やまだ のりふみ)

元NHK 学芸 特任教員

中国・北京市を中心に日本人留学生と中国人大学生の交流事業の企画運営に20年以上の実績を有する。昨年の日中未来創発ワークショップには企画アドバイザーとして参加、ワークショップ当日は総合司会を担当。

司会

高橋 恵子 (たかはし けいこ)

元中国語訳通訳ボランティア

静岡県沼津市生まれ。静岡大学在学中からNHK静岡でラジオ番組を担当。大学卒業後、読者テレビ入社、読者誌事務を経てフリーアナウンサーに。93年～95年、2011年～17年中国国際放送局(北京放送)で経済文化人専門家として勤務。

What is CHANGE FOR THE BLUE?

CHANGE FOR THE BLUE

「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲームは海洋ごみ問題について考えるゲーム型のアクティブラーニング学習教材です。海のごみや汚れを減らす行動のシミュレーションを通して海洋ごみ問題について考えるきっかけとしてもらえるよう開発されたゲームです。ワークショップでも参加者でプレイし、海洋ごみ問題について考えていきます。

沼津御用邸記念公園 東陽東陽学問所

今回会場となる沼津御用邸記念公園は、1969年(昭和44年)に沼津御用邸が廃止されたのち、沼津市に無償譲渡され、昭和45年に「沼津御用邸記念公園」として開業しました。

東陽東陽学問所は、かつての御用邸所としての歴史を引き継ぎ、文化・教養活動の拠点として改修・整備されたものです。

Access 〒410-0822 静岡県沼津市下青貫島2802-1

沼津駅 沼津御用邸記念公園

公益財団法人 徳川平和財団 徳川日中友好基金

1989年に設立された日中関係大規模の民間基金。日中両国間の相互理解促進、人をつなぐ、協力を重ね、未来を創る方針のもと、交流交流、動機交流、学術交流、人材育成、日本経済発展など幅広い活動を展開している。

(3) 専門家レクチャー概要

「日中民間の協力 海ごみ アクション」と題した日本財団 海洋事業部 シニア・オフィサー / 笹川平和財団 海洋政策研究所 塩入同主任研究員の講演。海ごみの約7割は自然分解することがないプラスチックごみであること、海ごみの8割は陸で発生していることに言及。陸ごみが川へ運ばれ、川から海へ流れていく過程を紹介した上で、海より川、川より陸と早い段階でのごみ回収はより容易であり、よりより低コストであることから、できるだけ早い段階でのごみ回収の重要性を強調。

さらに、海ごみは、広範な地域や国々に関係する問題であることから、現在実際に行われている自治体連携による海洋ごみ対策の具体例「瀬戸内オーシャンズX」を紹介し、海ごみ問題を根本的に解決するためには、自治体、企業、市民が協働して海ごみ削減のための行動を実践すること、ひとりひとりが海ごみ問題を意識し、地域社会や国、世界国々の意識が変わっていくこと、そして行動を実践することの重要性を強調。



(4) グループワーク

日本人、留学生がほぼ同数の5～6人ずつ6グループに分かれ対話を行った。

グループ分けは所属大学や学生団体などの属性、「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲーム 体験時のメンバー等に配慮し、できるだけ知らない参加者同士が一つのグループになるよう、事務局が事前に振り分けた。

目的	日中の学生が「傾聴と対話」を絶えず念頭に、相手の考えや意見を聞くこと
ゴール	「今後10年の日中の民間協力で海ごみを減らすアクション」をグループごとに日中学生が協働作業で考えること
最終発表	<p>グループごとのアクション案の最終発表には以下の4点を必須とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■発表者には少なくとも日本人1名留学生1名が含まれること ■日中民間の誰と誰が協力するか明確にすること ■どのようなアクションをとるか、その特徴などに言及すること ■そのアクションプランを実現するに克服すべき課題にも触れること <p>但し、克服課題の具体的解決策までは考えなくてもよいものとした。</p>
対話の流れ	<p>対話は以下の手順によって行われた</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 最初5分間会場(室内)で思いつくままに各自のアイデアを書き出す 2 御用邸園内を自由に移動しながら、アイデアを出し合う 3 会場(室内)に戻り各グループのアイデアをまとめる 4 メンバーをシャッフルし、自分のグループ内での対話内容を他グループと共有 5 発表グループに戻り、最終発表に向けアクション案と克服すべき課題を考える 6 日本人と留学生が最低1人ずつ入り、アクション案を全体に向け発表 7 発表を聞きながら、全員がそれぞれのグループに一言コメントを書き出す

第1グループ

アクション 企業協賛学術ツアー

企業の協賛を得て、中国人学生が日本の研究所へ学術ツアー

企業のメリット

CSR 広告

学生のメリット

日本への学術ツアーをモチベーションに意識向上を図る

大学のメリット

日本の海洋ごみ研究と中国のIT DX技術交流

課題

企業の収益性、法制度の違い / 分別法の違い



参加者からの感想

- 日中間で学生の段階でごみ問題の意識をもてるのは良い
- 技術所有権はどうするのか
- 海洋研究とIT技術の組み合わせがいい
- 企業のメリットが課題

第2グループ

アクション 日中ゴミ巡り～日中の大学と観光協会との協働～

日本と中国の大学と観光協会が協力し日中双方の有名な観光地のごみ問題を調査、見学

独自性

日中両国を訪れる

社会性

もともと「ごみ問題」に関心のなかった学生の意識向上を図ることが可能

課題

ビザ問題・意欲・資金



参加者からの感想

- 観光をインセンティブに両国の意識改革を図るのは面白い
- お金がかかりそうだが、影響範囲は限定的
- 日中両国の比較、データ収集は実践可能性が高く良性的競争を促せる
- 観光とごみ問題をミックスさせることに驚いた。具体性、社会性、独自性の説明も良い

第3グループ

アクション

日中の研究機関による自然分解素材の開発と生産

日本の研究機関が自然分解される素材を開発し、中国企業がその素材を生産

発想

ごみの由来を考えた場合、そもそもごみを発生させない方向性を考えた

課題

開発資金、生産コストと販売価格、知的財産権、国により違う法規制



参加者からの感想

- 知的財産権に関する課題が興味深い（法規制の面も）
- 課題とそのソリューションに対して広範な考察がなされている
- その国の研究機関と企業が、なぜ、自国ではなく他国の研究機関と企業と協力するのかと思った
- 生産の段階でその量を減らすことは良い

第4グループ

アクション

日中デザイナーによる商品開発

日中デザイナーは協力して回収した廃プラスチックを利用した商品を開発する

発想

ブランドメーカーがゴミを再利用した素材で高付加価値商品を生産していることから

課題

収益化、著作権・特許等、資金・人材



参加者からの感想

- 回収プラスチックの商品による循環のための考察とアプローチが面白い
- 私もNIKEの環境にやさしい素材の靴が好きなので、デザイナーの協力は楽しそう
- 経済的な角度からの分析も大事、発展できない場合、環境も守れない
- 協力に関わる法規制や著作権の複雑さがよく分かった

第5グループ

アクション 日中フォーラム（研究機関、企業、学生ボランティア）

企業から資金を集め、研究機関がフォーラムを開催、学生はボランティアとして参加

独自性 日中両国で一年ごとに交互開催

社会性 量、美しさ、技術など多様な形式でのごみ拾いコンテストを実施

企業のメリット 「今あるごみをどう減らすか、これからでる海ごみをどう減らすか」これから出る海ごみを減らすには国際的意識の向上が必要

課題 意識の低い人の参加、海ごみに対する国際的な意識



参加者からの感想

- 開催国を毎回変えるのはとても良い 国は異なっても海は世界に1つしかないので、その点を感じられたら有意義
- 今のごみをどう減らす？これからのゴミはどうするか？この二つの問題提起が非常に良い
- ボランティアに継続性があるのかなと思った 一過性にならなってしまうのか
- 参加者のインセンティブの方策が面白い

第6グループ

アクション 海ごみを減らすための諸対策

ゴミ分別制度、既存・今後のゴミ対策、日中韓協力研究、材料開発等

方向性 今存在しているごみをどう減らすか、未来に存在しうごみをどう減らすか

主体 行政、学術機関が主体になるのでは

ボランティアの人数には限りがあるので罰金や賞金などインセンティブを活用

国際協力 外洋に流れ出てしまったごみに関しては日・中・韓の協力が必要

これから出るごみに関してCO2のように国ごとに排出規制を設ける

日中韓の大学間の協力、修学旅行などで海ごみ問題を紹介、単位などでモチベーション

生分解性の素材などの開発



参加者からの感想

- CO2と同様に各国でごみの排出量を定めるのが面白い！民間レベルだと限界があるかもしれない
- 規制だけでなくインセンティブも考慮しており、既存の枠組みをうまく拡張していて興味深い
- 对于现存的垃圾和未来的垃圾领着都有所考虑，不仅时中日两国之间，中日韩三国情况都有所考虑
- 学校教育の中に海洋ごみを取り入れるのはいいアイデア

(5) 講評コメント

「経済の問題と結びつけて発表しているグループが多かった。私たちも企業が環境行動に責任をとるか、を考えています。CSR に関して、企業が出したお金を NGO 団体がどのように使っているか、ごみがどれくらい回収されたか、どんな新しい技術が開発されたか等をきちんと説明できるような仕組み作りが必要だと感じています。皆さんが考えたアイデアがまさに実行されつつあるものもありますが、やはりカギは経済との兼ね合いになっています。今回のワークショップ参加者の中から海ごみ問題を解決できる人が出てくることを期待しています。」

▶ 塩入主任研究員

「今回は民間のこととして考えてください、というお題がありました。今国連環境計画というところでゴミ問題に関して公的な拘束力を持つ条約を作る議論がスタートしていますが、国際会議での議論は遅々として進んでいません。その一方、環境は悪化していくばかりです。法的な拘束力がある政府レベルの協力は動きが遅いが、民間レベルでは即効性がある。一人ひとりが動けば、世界的な動きになります。今日参加した皆さんが想像している以上に民間一人一人の行動は重要です。」

▶ 田中研究員

「短時間でアイデアを出して素晴らしいと感じました。楽しいと感じたアイデアは是非実行していただきたいと思います。私も海岸清掃に毎週参加しているのですが、いかに楽しむか 楽しむことがとても大事だと思っています。楽しければ自然と続けていくことができ、その継続がいつしか大きな力になります。誰かが楽しそうにしていると仲間は集まってくるものです。楽しいこと、カッコいいことは、魅力を感じられるので、是非、今日出したアイデアを楽しんでやっていただきたいと思っています。」

▶ 「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲーム ファシリテーター 石川氏

最後に、主催者を代表して笹川平和財団 笹川日中友好基金 特任グループ長の尾形慶祐が、「今後もこうした交流の場を多く作っていきたい。交流に関する希望や提案があれば是非聞かせて欲しい。財団で手伝えることがあれば、全力で応援する」と参加者に呼びかけた上、「皆さんと共に交流イベントを開催し、共に国際交流の場を盛り上げて行きたい」との希望を述べてワークショップを閉会した。



(6) 各チームの発表内容

海岸清掃体験振り返り

- 想像以上のごみの種類と量にショックを受けた
- 非常に細かいプラスチックごみも堆積していて人力での清掃の難しさを感じた
- 海ごみ問題に関しては「治療」より「予防」の方が有効であると感じた

「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲーム 振り返り

- 社会のさまざまな側面が相互に関係しあっていることに気づいた
- 環境保護のための努力が想像もしない方面に影響を及ぼすことがあるので慎重に行動する必要がある
- 市民意識を高めることが海ごみ削減の基礎と感じた

グループワーク

日中の民間が協力して行える海ごみ削減にむけたアクションとその課題を考える

第1グループ

アクション 企業協賛学術ツアー

課題 企業の収益性、
法制度の違い / 分別法の違い

第2グループ

アクション 日中ゴミ巡り
～日中の大学と観光協会との協働～

課題 ビザ問題・意欲・資金

第3グループ

アクション 日中の研究機関による自然分解
素材の開発と生産

課題 開発資金、生産コストと販売価格、
知的財産権、国により違う法規制

第4グループ

アクション 日中デザイナーによる商品開発

課題 収益化、著作権・特許等、資金・
人材

第5グループ

アクション 日中フォーラム
(研究機関、企業、学生ボランティア)

課題 意識の低い人の参加、海ごみに
対する国際的な意識

第6グループ

アクション 海ごみを減らすための諸対策
(ゴミ分別制度、既存・今後のゴミ
対策、日中韓協力研究、材料開発等)

2-3. その他

(1) 海岸清掃体験について

5月21日、6月17日の両日とも参加学生はワークショップ会場近くの沼津市牛臥海岸において海岸清掃を体験した。地元ボランティア団体「地球をきれいにする会」の協力のもと、30分程度という短い時間であったが、海岸のごみを拾いながら「海ごみ」といっても、藁ごみ、外洋からの漂着ごみ、河川上流からの人間由来のごみなどがあることを学んだ。大部分の学生にとって海岸清掃は初めての体験であり、じかに海ごみの現状を見ることによって、より自分ごととしてグループワークに臨むことができた。

本事業は日本財団及び環境省より、「海ごみゼロウィーク2023」参加団体として認定された。



2-3. その他

(2) 「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲームについて

「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲームは海洋ごみ問題について考えるゲーム型のアクティブラーニング学習教材。参加者は農家や自動車工場、清掃会社など社会にある代表的な12の職業・役割に分かれてプレイ、海洋ごみ問題を自分ごととして学ぶことが可能。12の職業・役割を分担する各プレイヤーの行動、選択によってゲーム内のバーチャル世界全体の海ごみ問題を解決することがゴール。参加者は代表的12の職業のプレイヤーであると同時に、バーチャル世界の生活者でもある。ゲームの進めかたとしては、自動車工場なら自動車工場の職業としての海ごみを減らすアクションのカードと、生活者として海ごみを減らすアクションのカードを1ターンにつき、それぞれ1枚選択。ゲーム内のバーチャル世界全体の海ごみ削減は、一つの職業だけ、一消費者だけのアクションでは達成できず、他の職業のプレイヤーと情報交換しながらゲームを進めることによって、より理想的な世界を築くことができる仕組みとなっている。今回の参加者は12の職業・役割より多かったので、一つの職業・役割を日中の学生が何人かが1チームになって相談しながら担当した。

※「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲームは国民一人ひとりが海洋ごみの問題を自分ごと化し、「これ以上海にごみを出さない」という社会全体の意識を向上させていくことを目標に、日本財団「海と日本プロジェクト」が推進しているプロジェクト。



(3) ワークショップ会場 沼津御用邸公園について

ワークショップは海岸清掃を体験した牛臥海岸から徒歩約10分の沼津御用邸で開催された。沼津御用邸というのは通称で、正確には旧御用邸、正式名称は沼津御用邸記念公園である。

明治26年に当時皇太子だった大正天皇の養生先として造営され、残念ながら1945年の沼津大空襲で一番古い部分は消失してしまったが、現在残っている西附属邸は幼少の頃の昭和天皇の御用邸として明治36年に造営されたもので当時の皇室の生活空間が家具などとともに保存されている。今回実際にワークショップで使用した東附属邸学問所も明治36年に昭和天皇の学問所として造営されたものである。

中国からの留学生だけでなく日本人学生にとっても日本庭園に囲まれた旧御用邸という文化財というロケーションでの交流は貴重な体験となった。





3 取材実績

1 【人民網（日本語）】

中日の青年が共に「海の未来を考える」ワークショップ
静岡で第2回「日中未来創発ワークショップ」

<http://j.people.com.cn/n3/2023/0625/c94475-20035328.html?fbclid=IwAR15dcR3zE7Gt-A-cfWHPHZkGfKPhSHjCI5YngjhKCwxXoJFgzlhElvf7Bc>

2 【人民網（国際チャンネル）】

中日青年共话海洋环境保护
第二节“日中未来创发研讨会”在日本静岡举办

http://world.people.com.cn/n1/2023/0621/c1002-40018951.html?fbclid=IwAR0TKyepWoUPHRN7zw3_SHTA_IWy6KStCnA8b1ips0cTR11s2RhjVnOtH3E

3 【静岡新聞】

海洋プラスチックごみ問題論議 沼津
日本人学生と中国人留学生が交流会

https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/1264412.html?fbclid=IwAR1y9u-AIAbvAqZiZz2tI4tTHJR5cPcBKQhOszRnc2iyWO_W4fW1w_yddFw

4 【海ごみゼロウィーク 2023】

日中未来創発ワークショップ
ニッチュウミライソウハツワークショップ

<https://uminohi.jp/umigomi/zeroweek/report/%e6%97%a5%e4%b8%ad%e6%9c%aa%e6%9d%a5%e5%89%b5%e7%99%ba%e3%83%af%e3%83%bc%e3%82%af%e3%82%b7%e3%83%a7%e3%83%83%e3%83%97/?fbclid=IwAR323EAoYV9bKbXJ6PfQ7PLsJXnkUwgW0LOTYL-RDdiGp-e-iYZ4z-xv45E>



4 情報発信（ウェブサイト、ブログ、SNS など）

1 【日本科学協会】

日本科学協会の国際交流活動

日中未来創発ワークショップ～海の未来を考える in 沼津～の開催（6月17日）

<https://blog.canpan.info/kouryu/archive/168>

2 【笹川平和財団 笹川日中友好基金】

「日中未来創発ワークショップ in 沼津～海の未来を考える」開催報告

海でつながる日本と中国、そして未来

https://www.spf.org/china/news/20230621.html?fbclid=IwAR3Xx-NL2qm2IDtTbJqt_Oo674C5SEuaGA6izxO0CmlEp8ep6vb67DLSiCE

3 【茶話日和】

8月27日 日中未来創発ワークショップ in 沼津 第一回イベントレポート

<https://chawabiyori.jp/%E8%8C%B6%E8%A9%B1%E6%97%A5%E8%A8%98/%E6%97%A5%E4%B8%AD%E6%9C%AA%E6%9D%A5%E5%89%B5%E7%99%BA%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%83%E3%83%97in%E6%B2%BC%E6%B4%A5%E3%80%80%E7%AC%AC%E4%B8%80%E5%9B%9E%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3>

4 【茶話日和】

8月31日 日中未来創発ワークショップ in 沼津 第一回イベントレポート

<https://chawabiyori.jp/notes/%E6%97%A5%E4%B8%AD%E6%9C%AA%E6%9D%A5%E5%89%B5%E7%99%BA%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%83%E3%83%97in%E6%B2%BC%E6%B4%A5%E3%80%80%E7%AC%AC%E4%B8%80%E5%9B%9E%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3>

5 【茶話日和】

8月27日 6/17 笹川平和財団 取材記事

<https://chawabiyori.jp/%E8%8C%B6%E8%A9%B1%E6%97%A5%E8%A8%98/6-17-%E7%AC%B9%E5%B7%9D%E5%B9%B3%E5%92%8C%E8%B2%A1%E5%9B%A3-%E5%8F%96%E6%9D%90%E8%A8%98%E4%BA%8B>

6 【茶話日和】

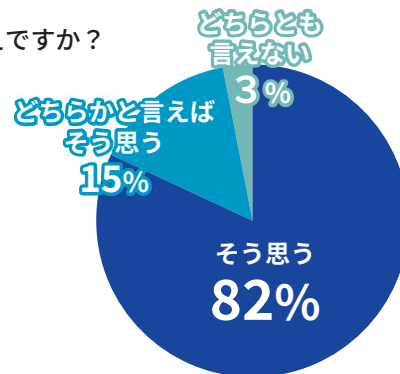
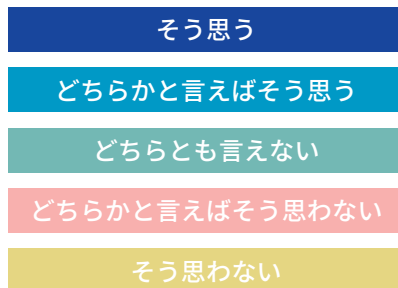
8月31日 日中未来創発ワークショップ in 沼津 第二回レポート

<https://chawabiyori.jp/notes/%E6%97%A5%E4%B8%AD%E6%9C%AA%E6%9D%A5%E5%89%B5%E7%99%BA%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%83%E3%83%97-in%E6%B2%BC%E6%B4%A5%E3%80%80%E7%AC%AC%E4%BA%8C%E5%9B%9E%E3%83%AC%E3%83%9D>

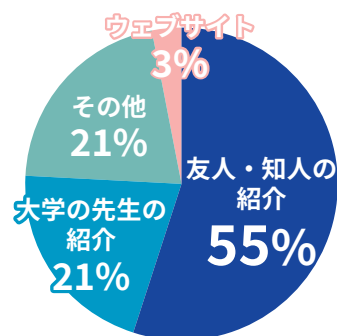


5 参加者アンケート（6月17日2回目終了後のアンケート）

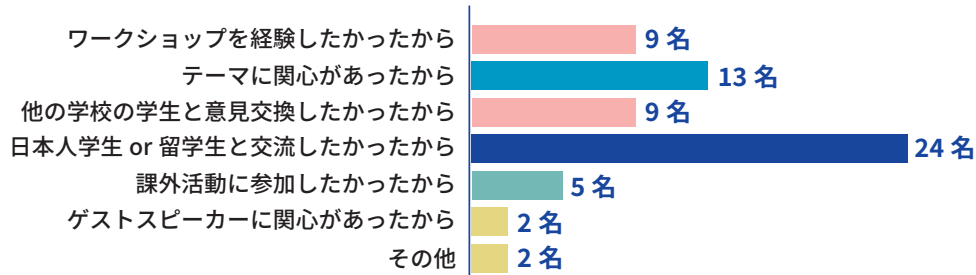
Q 全体として参加して良かったとお考えですか？



Q ワークショップをどこで知りましたか？



Q 日中未来創発ワークショップへの参加を決めた理由を教えてください。



ワークショップに参加した感想について

- よかった点：日本人学生、留学生、大学先生の参加。多言語、多文化の交流
- 皆と一緒に交流ができて、とても楽しかった
- 楽しかったのですが、時間がキツキツで大変でした
- 日本語が下手で制限があるんですけど、いい勉強になりました。海岸の実地見学はもっと長くていいと思う
- 5/12の活動より、今日の方がとても楽しく参加できました。議論の深さもあってよかったです。
- 色んな人と話せたのが楽しかったです。ご飯もおいしかったです。水分補給、トイレ休憩の時間がこまめにあるといいなと思いました。
- いろいろな人と話しできて、非常にうれしかったです。
- 一度目よりもずっと改善されていてよかったです。ですが、日本・中国でわかるのはあまりよろしくないと感じました。
- 和気あいあいとした雰囲気でした。屋外で体を動かすアクティビティや自由に語り合う時間がもっとあればより良かったと思います。
- ご飯がとてもおいしくて幸せでした。ゴミ拾いもう少し体験したかったです。
- 単なる交流に終始するのではなく、一つの課題に共同で取り組んだことでお互いの国の新たな側面を知ることができました。また、話もより弾んだように思う。ただどうしても解決策はピントの合わないものがあることが多く、もう少し制約（楽しさ、経済、CSR？）を加えた方がより現実的な案も出てくるかもしれない。
- もっとディスカッションの時間をいただければもっといい発表になると思う
- 時間が短いから、いろいろないいアイデアが展示されなかった。でも楽しいです。特に沼津の歴史の部分は予想外（で）、面白いです。
- 海岸清掃の体験をもっとしたいです。ワークショップがとても楽しかったです。このような貴重な機会をいただきありがとうございました。
- 学生側にある程度の自由があり、動きやすかった。コアメンバーは、より動かせたいと思う
- 様々な意見を持つ学生と交流することで、それぞれの当事者の立場から課題について考えられて非常に面白かったです。
- 良かった点：友達たくさんできてよかったです。カードゲーム面白かったです。海ゴミに関する知識及び関心も増えてきました。
- スピード感がよかったです。ご飯がおいしかったです。ゴミ拾いの普段の様子を見てみたかった。
- 想像より楽しいです。ありがとうございました。
- 普段留学生の方と意見を交流する機会がないので、今回貴重な体験ができてよかったです。と思いました。
- 海洋ごみを拾うじかんをもう少し延ばし、より学生に海ゴミの現況を知れるのではないかと思います。
- 日程にゆとりがあり、よかったです。大学（院？）・学部出身にかかわらず、こうりゅうできるのは大変面白かったです。
- 実践的のゴミ拾い活動の時間を増やしてほしい。もっと身体的な活動を行うことで、ゴミ削減の必要性をより実感できるように思う
- とてもいい機会です。日本の学生と留学生に友達を作ることができます。
- 参加してよかったです。午前中と午後のグループメンバーがチェンジされて、多くの人と意見を交換することができて、たくさんの友達を作ってきて、いいと思います。
- 二つ（の）グループで話すのはよかったです。と思いました。
- 感想：ごみ問題はいかに深刻か専門家のお話を聞いてわかりました。とくに普段目にしないところでの問題へ関心を持ちました。
- 様々な意見に触れ合えて、いい刺激になりました。
- 学生同士で話して考える機会は貴重でした。とても楽しかったです。運営のみな様、本当にありがとうございました。
- いろいろな人と様々な意見を交換できたのでよかったです。



6 主催団体・協力団体

(1) 主催団体

公益財団法人笹川平和財団 笹川日中友好基金

1989年に設立された日中間最大規模の民間基金。日中両国民の相互理解促進、人を育て、協力を重ね、未来を創る方針のもと、政治家交流、防衛交流、学術交流、人材育成、日本語教育支援など幅広い活動を展開している。

笹川日中友好基金ウェブサイト <https://www.spf.org/programs/china/>

(2) 協力団体

公益財団法人日本科学協会

1924年に科学者の相互協力と科学知識の普及を目的として設立。「日中未来共創プロジェクト」は、中国の大学への日本語図書寄贈、日本知識大会、日本研究論文コンクール、Panda杯全日本青年作文コンクールなど日中両国の将来世代の相互理解を促進する多様な活動を展開している。

日本科学協会ウェブサイト <https://www.jss.or.jp/>

京論壇

2005年に東大と北京大の学生が創設した学生交流団体。毎年、日中両国の社会課題について「学生ならではの視点」から徹底的に議論し、その成果を報告会・シンポジウム・出版などを通じて発信し、両国の深い相互理解の達成への一助となることを目指している。

京論壇ウェブサイト <https://www.jingforum.org/>

茶話日和

東大生を中心とした学生 web メディア。東アジアの人・生活・文化などをウェブ記事や動画で発信すると同時に、留学生との国際交流イベント、アジア映画の自習上映会なども開催。国家ではなく市政の人々、個々人の生活に視点を当てた情報発信を目指している。本プログラムではイベント開催記事、専門講師インタビュー等も担当。

茶話日和ウェブサイト <https://chawabiyori.jp/>

(3) 企画・運営協力

石川千里氏（「CHANGE FOR THE BLUE」カードゲーム ファシリテーター）

北欧系企業に勤務する傍ら、「社会問題」に取り組む体験型ビジネスカードゲームのファシリテーターをライフワークとする。環境問題への取り組みとして海岸掃除を主に行っているが、環境問題に取り組むことが経済発展につながる仕組み作りを模索中。海ごみ問題を考えるビジネスカードゲーム『CHANGE FOR THE BLUE』公認ファシリテーター。

高橋恵子氏（フリーアナウンサー）

静岡県沼津市生まれ。静岡大学在学中からNHK 静岡でラジオ番組を担当。大学卒業後、群馬テレビ入社。押阪忍事務所を経てフリーアナウンサーに。93年～95年、2011年～17年中国国際放送局（北京放送）で招聘外国人専門家として勤務。

山田典史氏（BC学院）

中国・北京市を中心に日本人留学生と中国人大学生の交流事業の企画運営に20年以上の実績を有する。本ワークショップの企画アドバイザーに就任。

地元海岸清掃ボランティア団体「地球をきれいにする会」

2年以上にわたり毎週日曜日、沼津の牛臥海岸、島郷海岸での海岸清掃を続けている沼津のボランティア団体。本プログラムでは海岸清掃体験の際にトングなどを貸して頂いたほか、尾澤代表から牛臥海岸の海ごみの現状に関して紹介いただいた。

地球をきれいにする会 facebook <https://www.facebook.com/groups/964340720790610>



7 実施評価（主催側の所見）

昨年に引き続き本ワークショップでは、日中の学生の対話、参加者同士の交流と関係性の構築を重視した。本ワークショップの開催前から「京論壇」、「茶話日和」という2つの学生団体に所属する日中両国の学生にご協力を頂き、意見を参考にさせて頂いた。5月21日の第1回目開催では、上記の2団体及び日ごろから連絡のある大学の先生方に参加者募集の告知をお願いした。東京を離れての開催は初めてであったにも関わらず、首都圏からも多くの学生が参加し、最終的に日本人大学生8名、中国人留学生8名の参加を得た。参加者の大部分が事務局（主催者）と事前に意思疎通を図ってきた学生であったこともあり、首都圏からの参加者にとっては往復の移動時間だけでも4時間以上というハードなスケジュールにも関わらず、ワークショップでは活発な意見発表が行われた。

その一方で、1日という時間的制約から運営・進行・プログラム内容の面にゆとりがなくなる課題も浮き彫りとなった。第1回では10年後の未来に焦点をおき、どのような取り組みにより海ごみ問題を解決し「海の未来を守る」ことができるかを最終アウトプットに設定したが、限られた時間の中で学生が発想したアイデアを社会実装に繋げるにはどのような課題があり、その課題を克服するためにはどのような解決策があるかまで話し合うよう求めたので、スケジュールがタイトになりすぎてしまった。

第2回目では、第1回に参加した学生からのフィードバックも参考にしつつ、6月17日の第2回目ではスケジュールに追われることなく、より「傾聴と対話」に時間を割いたプログラムを作成した。第2回目は公募で参加者を募ったが、想定を上回る参加希望があり参加枠を広げた上で、更に選考の結果、最終的に日本人大学生17名、中国人留学生16名が参加した。第1回の参加者が日中交流や国際交流に関心の強い学生が大部分であったのに対し、第2回には「海洋」や「環境」が専攻の学生の参加もあり、彼らの中には初めての日中交流の機会だという学生もいた。

また、第1回の参加者からも若干名が第2回に参加し、グループワークの際には自主的にグループ内でファシリテーター役を務めてくれた。第2回では十年後の未来に焦点をおき、どのような日中協力により海ごみ問題を解決し、「海の未来を創る」ことができるかを最終アウトプットに設定した。第1回の反省を受け、第2回では学生が発想したアイデアとそのアイデア実現のために必要な克服すべき課題を考えるとところまでをゴールとし、克服すべき課題の解決策までは求めないなど、スケジュールに余裕をもたせ対話の時間を長くとることができた。

第2回のアウトプットでは直接海ごみを減らす方法よりも、より多くの人々と海ごみ問題を共有し、市民意識を高めることによって海ごみを減らそうという発表が多かった。グループディスカッションの時間が短かったにも関わらず日中学生間で活発な対話が行われた。2回目の参加者の中には日ごろ日中交流や国際交流とはあまり関わりのない「海洋」や「環境」専攻の学生もいた。そういった学生にこそ本ワークショップのような日中交流の場に参加して、相手の国の学生が何をどう考えているか対話を行い、交流を図って欲しいという願いがあるがある。

今回初めての試みとして学生webメディア「茶話日和」に2回のワークショップのイベントレポートと総合司会高橋恵子氏、専門講師田中広太郎氏、専門講師塩入同氏への動画インタビューをお願いした。学生webメディアに掲載されることにより、日中の学生が直接交流する本ワークショップがより多くの学生の目に触れる機会を得た。

最後に今回のワークショップの開催にあたり、多大なご協力をいただいた日本科学協会の職員の皆様、海岸清掃体験の参加に地球をきれいにする会の皆様、ゲームファシリテーターの石川様、静岡沼津市の高橋恵子様、そして教え子の参加を後押しいただいた各大学の先生方、メディア各社の皆様、その他、多くの関係者の皆さまのご助力に心より感謝を申し上げます。

2023年10月発行

発行 公益財団法人笹川平和財団

〒105-8524 東京都港区虎ノ門 1-15-16 笹川平和財団ビル

電話：03-5157- 5430（代表）

ウェブサイト：<https://www.spf.org/>

編集 日中未来創発ワークショップ事務局（笹川日中友好基金内設置）